

2 分科会の記録

分科会①「特別支援教育とキャリア教育」～協議の柱：社会参加に向けた指導・支援～

普段教育相談で中学生をみて思うこと、行くとよい実践は？

今金高等養護学校（以下、今養）・金子氏

- ・挨拶ができない子が多い。初めての場所、知らない人にもできる子が少ないと感じる。
- ・本校は職業学科を設置する学校であるため作業学習を行う。どこの学科に入っても挨拶、連絡、報告する力を付けさせたい。
- ・中学校でも生きていく力、かわいがられる力（素直さ、話を聞く姿勢、表情）がある子を育ててもらえれば。

フロアより

- ・機械や動物を扱うため、返事を大きくすること、わからないときにわからないと言うことを指導している。

挨拶など、日常の指導で大事にしていることは？

檜山北高・石崎氏

- ・TPO に合わせた挨拶が大事だと思う。教師が他生徒に対して厳しく指導しているときにも「こんにちは。」と言ってくる生徒がいる。

＝どのように指導すればよいのか？＝

教育大・北村氏

- ・実習の評価で仕事内容よりも挨拶や返事、指示されたことが終わった後の報告、身だしなみを整えることができる生徒のほうを採用してもらえる。
- ・障害のある子にとって「場をわきまえた」というのは次段階。「できる」ことが大事。その次に場をわきまえることが大事。教えていくことが大切。

＝今の中学生は挨拶しない子が多いか？＝

今養・金子氏

- ・緊張や障害からくる緊張もあるかもしれないが、本校の生徒よりは挨拶ができない。

＝中学校よりもっと早い時期からできた方がいいのか？＝

フロアより

- ・挨拶、返事が大切だと聞く。継続が大事だと思うが、マンネリ化してくる。

＝効果的な指導方法は？＝

フロアより

- ・1 つめに、挨拶運動を行っている。八雲の「八」を使って、8メートルで挨拶しようという取り組み。全校で行っている。
- ・2 つめに、声を出す。太鼓を取り入れている。体育館の後ろまで聞こえる声を出すことが目標。声を出すことによって自信になり、普段も挨拶を大きな声でできるようになる。
- ・3 つめに、自立検定。自分で自分を評価する。

教育大・北村氏

- ・まさにキャリア教育。ステップアップ。
- ・自己肯定感を高めたり、内面の成長を促している取り組みだと感じた。
- ・挨拶運動ではなぜ行っているのか、など説明することでまた意識が変わってくるかも知れない。理想としては挨拶の意味・意義をわかった上で行うのが本当かもしれない。

檜山北高・石崎氏

- ・挨拶すると思うが、意味を、となると難しい。先日、「なぜ挨拶をするのか？」と生徒に聞いたら、みんな答えられなかった。その時は私見を言ったが、全校での取り組みとなると違うかな、と感じる。
- ・小さい頃からの挨拶の経験が必要かもしれない。

教育大・北村氏

- ・障害のある子どもに限定すると、学校ではできるけど、家に帰ったときにできない、ということがあると思う。
- ・普通高校の生徒でも挨拶できる子とできない子がいる。学校ではできているがそれを社会に出たときにできない子が多い。

＝小学校の子が自ら挨拶するきっかけはとは？＝

フロアより

- ・毎朝玄関に立っているが、自分から挨拶する生徒は3割。しているけど聞こえない子もいる。意味は理解させなくてもいい、と思っている。挨拶はするものなんだ、という経験をさせてほしいと思う。3割の子は自分に自信のある子。そういう子は10メートル離れていても大きい声で挨拶してくる。だからそういう子を育てないとな、と思う。

＝自己肯定感、自信、さっきの話とつながりますよね？＝

フロアより

- ・牛舎の担当。業者の人など外部の人が来校する。生徒のことを覚えてくれて、大人として接してくれる。いろんな話をしてくれる。仕事の技術も教えてくれる。生徒はそのためには挨拶しなけ

ればいけない、と感じて大きな声で挨拶する。何かしてもらおう、という意識。

どうやったら意欲的な自己肯定感が強い子が育てられるのだろうか？

今養・金子氏

- ・褒められるのがいいのではないか。
- ・もっと上を目指そうという意識。「運動だけは褒められてきたから。」など。
- ・いいときは褒める。いけないときはなぜその行動がいけないのかを説明することが必要なのではないか。

教育大・北村氏

- ・失敗経験を反復すると、小さな頃から「僕は何をやっても無駄だ」という考えになる。
- ・褒めることは大事。また次も頑張ろう、となる。
- ・上手に褒めることが大事。意欲的な行動につながる。

＝どのように褒めればよいのか？いいところを見つけるコツは？＝

教育大・北村氏

- ・小学校で「ちくちく言葉」などの取り組みがある。

フロアより

- ・誰に褒められるかが大事。
- ・「ほわほわ言葉」＋具体的に何が良かったか伝えることが大事。
- ・ほわほわ言葉を遣えたら「言えたね。」と般化させる。モデリング。

＝生徒が褒められるように意図的にやってることはあるか？＝

フロアより

・褒める対象は生徒だと思うが、ときどき褒めることに加えて、「先生びっくりしちゃったよ！」などと一言添える。「自分がこういうことしたら先生こんなふうに思うんだ！」と生徒が思うようにする。

＝普段の関わりの中ではどのようなことを行えばいいのか？＝

教育大・北村氏

- ・ADHDの子に対して褒めるところが見つからない子がいる。普通は何かいいことをしたときに褒められると思うが、その子の保護者には、「何もなかったら褒めることにしましょう。」と言っている。物を壊さなかったら褒める。など。

＝ほかには？＝

教育大・北村氏

- ・発達段階によってそれぞれ違うと思うが、「この子にはこれ」というようにあまり決めつけない方がいいのではないか。

引き継ぎ、個別の教育支援計画について

＝活用しているか？使いやすいものなのか？＝

フロアより

- ・個別の教育支援計画とは別に、より詳しく書かれたもので引き継ぎを行っているため、個別の教育支援計画がどこまで活用されているかは…。
- ・個別の教育支援計画は作成している。担任間では書類では引き継がれているが、学校全体として考えると、できていないのが課題。

今養・金子氏

- ・作成をお願いしたい。保護者の同意が大事だと思うが、中学校から届かないときがある。それがどうなっているのかが疑問。教育相談のときにはお持ちください、と言うが、持ってきてくれるところが数校しかない。入学する前提で教育相談しているので状況を知りたいが、実態把握が大変。事前資料があった方がその子をよりよく見ることができる。

＝中学校段階でつけさせたい力について＝

今養・金子氏

- ・午前中の講演で小室氏が「受験対策に偏っている」という話をしていた。まず入学が目標になってしまう。生きるためにつけなければいけない力は高校の前段階でつけていただきたい。
- ・選考検査は倍率があるため、落ちる子もいるが、受け皿も少ない分、選考検査をしないとイケない。
- ・「つけさせなければいけない能力は」とよく聞かれるが、コミュニケーション、基本的な国語・算数の能力、人間性が必要だと考える。つけさせなければいけない力をもう一度見直してほしいな、と思う。

＝他に行っている実践について＝

今養・金子氏

- ・話を戻すが、実態だけでなく、「この生徒はこのようなことをすると、こういうことができるからここまでしている。」というものがあればすごく助かる。高等養護では今までしていた支援をどこまで減らすか、どう変えていくかという視点で指導を行う。そのため、いま言ったようなことを書いていただければ。

フロアより

- ・引き継ぎのとき、どのくらい指導計画は有効だと考えているのですか。

教育大・北村氏

- ・指導計画はフォーマットがある。一番大切なのは、「こういうことをしたらこういうことができます。」ということ。
- ・はがきサイズのファイルに「コミュニケーションは…」というように支援計画と一緒に記載しておくといい。
- ・強めに指導すると殻に閉じこもってしまう生徒がいた。そういうところで情報の大切さを感じる。

フロアより

- ・八雲では、個別のファイルがあたるようになっている。使い方を説明したりしている。支援計画は保護者の協力が必要だが、(保護者が目を通すため)記入できないところも多い。引き継ぎを行うときには別の資料も用意して合わせて読んでください、ということもある。そういう難しさはあるかな、と思う。
- ・支援計画を見てもわからないことが多い。保護者の手前書けないことが多いのかな、と思うが、事実を書く分には問題ないと思うので、要注意するべきところは書いていただければと思う。書きづらいことがあれば別でも構わないので、できれば何かしらの形で伝わってくるとありがたい。それが生徒にとって有益なのではないかと思う。前もってわかっていたらどういうふうに言葉かけしたらよいのかかわかる。

檜山北高・石崎氏

- ・つくるとい話しはあって、フォーマットもあるけど作れていない。

フロアより

- ・今年度から作るようにしている。問題行動起こす子、特別な支援を要する子の割合が多い。生徒の情報共有を増やすようにしている。
- ・できるだけ多くの生徒の様子を聞けるように中学校を訪問して聞くようにしているが、なかなか出てこない場合もある。研修でも幼稚園・小学校・中学校の連携は強めましょうという話はあるが、高等学校はいれてもらえない。個別のものをつくって共有するようにはしている。
- ・情報はあがってきてはいるが、校内委員会でその子の名前があがっているというのではない。機能していない。「この子はこうだけど、しょうがないよね。」という感じ。校内を整備しないといけないと感じている。
- ・生徒個々の情報は出願時点では出ない。入学が決定した後に会議を開いて話し合っている。校内支援委員会でこういうことに気をつけて授業しましょう、という話をしている。そのような子は欠席日数が多い。今は半分欠席したら進級できないが…。
- ・八雲町の中高連携協議会。八雲高校の卒業生の離職率が増えてきている。ミスマッチだけではない。保護者の問題、職業に対する考え方。小中高の積み重ねが大事。キャリア教育。八雲高校の生徒は中学校のときに挨拶の取り組みがあったため挨拶は素晴らしい。最近気になることは朝に会っても夕方会っても「こんにちは。」ということ。挨拶の意味づけは高校の前にしてあげな

ればいけないのかな、と思う。

＝キャリア教育ではどのような視点が大切か＝

フロアより

- ・通常高校における発達障害のある生徒へのキャリア教育ではどのような視点が大切か聞きたい。

檜山北高・石崎氏

- ・個別対応で良いと思う。今年卒業させた生徒を事例に、どのような視点が大切か考えると、あせらせないこと。単位が取得できなかった生徒がいた。その生徒は調理が得意だったため、内容をがらっと変え、調理実習を個別で行った。レポートを書かせて保護者に見せると、保護者との距離が縮まった。本人の自己肯定感も高まったように思う。
- ・一番は先生に理解してもらうことが大事。先生方の中に枠組みを理解できていない人がいる。こういう授業はこういうことに使える！というものを文章で出して、理解してもらった。

教育大・北村氏

- ・生徒の課題とキャリア発達の課題は似ている。
- ・その生徒のここを支援したい、と思うところがキャリア発達の課題と同じなのかな、と思う。

今養・金子氏

- ・個の指導をどのように集団に返すか、という問題もあるが、個別の指導がまず大事。それをどうつなげていくか。

フロアより

- ・情緒学級の生徒で母学級に入れなくなった生徒がいる。給食に入らない。入学式などの行事にも入らない。どう返したらよいのか。

教育大・北村氏

- ・行動的なものでいえば、母学級で何をやればいいのかわからない、二つ目は何をやったらいいかはわかるけどスキルがなくてできない。
- ・生徒の問題行動には必ず意味がある。一つ目は、何かを得ることができる。二つ目は嫌なことを避けることができる。うまくできなかった失敗経験が反復されたのではないか。無理やり母学級におしこむのは無理。母学級に登校できるところからはじめて、理解とかスキルとかを教えていくことが大事。原因を追及しないと。

＝他学校での実践は？＝

教育大・北川氏

- ・小規模校で、一人しかいない子が入学当初不安定になった。おびえた感じで固まることもあった。
- ・担任と話し合い、芸体教科は全部入ろうという話しだったが、初めから全部入るのではなく、で

きるところから行った。

- ・母学級の生徒に「こういうところが助けが必要だからやってくれるかい？」と言って協力を仰いだ。その後、1教科ずつ増やしていった。今は「先生来なくてもいいよ！」と言っている教科もある。

フロアより

- ・周りの目、教師の協力を気にすることがある。結果をすぐ求めずに長いビジョンで取り組んでも協力を得られないことがある。学校全体で協力できる発信力があれば、生徒にとって良い指導になるのではないかな。
- ・現在、高校生の子を担当しているが、アイロンビーズが好きでそれを行っていると、作業学習に抵抗なく行くことができています。段階を追って行うことが大事なのかな、と思う。これから現場実習もあるので、引き継ぎが大事だと思った。

今養・矢倉氏

- ・統合失調症の子がいて月に何回通学しましょうか、と話していた。少しずつ来られるようになったがその子は卒業後離職した。
- ・卒後の支援も大事なのかな、と思う。周りの先生の協力を得ながらスモールステップで個別で対応していくことが大事だと思う。

フロアより

- ・知的障害の子が普通高校に入学したいと希望を出しても可能かな？

檜山北高・石崎氏

- ・入試の時点では情報がないうえどうしようもないが、入ってくるとなれば対策は行いう。しかし、知的障害の子が普通高校に入ったときのメリットを考えると難しい。

フロアより

- ・地域の学校に通いたいという気持ちがあり、ずっと支えてくれている仲間もいる。

檜山北高・石崎氏

- ・保護者の理解が必要。なぜ普通校に入学させたいのか？そして受け入れる側としては不安が大きい。

今養・金子氏

- ・普通高校か、高等養護か迷っているケースもある。3年後にどのようなビジョンを持っているかが大事。

最後に一言ずつ。

今養・金子氏

立ち返るが、本校も入学選考検査をあるためふるいにかけてしまうのが現状。ふるいで落ちてしまった子が普通高校に行くという状況もあるため、そのような現状を発信していければ、と思う。挨拶、生きる力の育成、かわいがられること、を視点に指導していったら頂ければと思う。

教育大・北村氏

やはり、将来の児童生徒の支援に関しては着実に取り組みを行っている。今これから何が考えられるかという、特別支援ではない子の支援が必要かな、と思う。「みんなちがってみんないい」ということを考えられることが大事。

檜山北高・石崎氏

教育相談のところで統合失調症でおさえつけなければいけない子がいた。それが悔しかった。何が良かったのか考えなければならないし、そのようなことを受け入れられるクラスづくりが大事だと思った。